

# 経済マンスリー [米国]

## 持ち直しの動きが一部でみられるも、製造業は引き続き低調

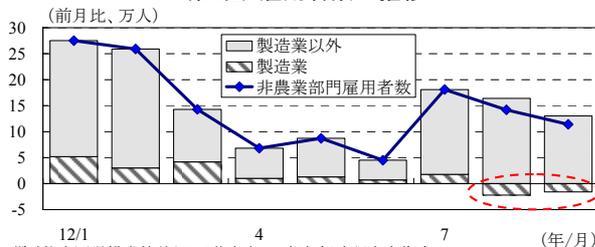
足元の米国経済には、一部で持ち直しの動きがみられる。9月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比+11.4万人と3ヵ月続けて10万人超の増加を記録し（第1図）、失業率も7.8%へ低下したことが示された。消費に関しては、9月の小売売上高が前月比+1.1%と3ヵ月連続で増加したほか、マインド面でもこのところ改善傾向が窺われる（ミシガン大学消費者信頼感指数は約5年ぶりの高水準まで回復）。住宅市場についても、依然低水準ながら、着工や販売などの持ち直し傾向が続いている。

このように、内需を中心に持ち直しの動きが多少みられるようになってきたものの、主に海外景気の減速や不透明感から、製造業は低調なままである。9月の鉱工業生産は前月比+0.4%と増加しているが、第3四半期累計では前期比▲0.1%の減少に終わった。また、実質財輸出は減速傾向が続き、3年ぶりの低い前年比伸び率となっているほか、設備投資の先行指標とされる非国防資本財受注（除く航空機）も4ヵ月連続で前年を下回っている（第2図）。前述した雇用統計中でも、製造業の雇用者数は前月比▲1.6万人と2ヵ月連続での減少となった（第1図）。

米国景気は、今暫く緩慢な回復が予想される。年末商戦にもまずまずの見通しが示されるなど（第1表）、目先は内需の底堅さが持続しそうである一方、欧州など海外景気の早期持ち直しは期待できず、輸出や設備投資が成長を抑制しよう。

加えて、潜在的なリスクも引き続き多い。所謂「財政の崖」の回避に残された時間はあと2ヵ月となり、景気への悪影響が限られる形で決着するのかどうか、予断を許さない。また、最近の世界的な景気減速を受けて、企業部門を中心に「中国をはじめとした新興国経済にこれまでのような高成長は見込めない」という中長期的な期待修正の動きが広がれば、投資活動の抑制等が想定以上に深刻となる虞もある。米国経済は、下振れリスクを多く抱えながら不安定な展開を余儀なくされる見通しである。

第1図：雇用者数の推移



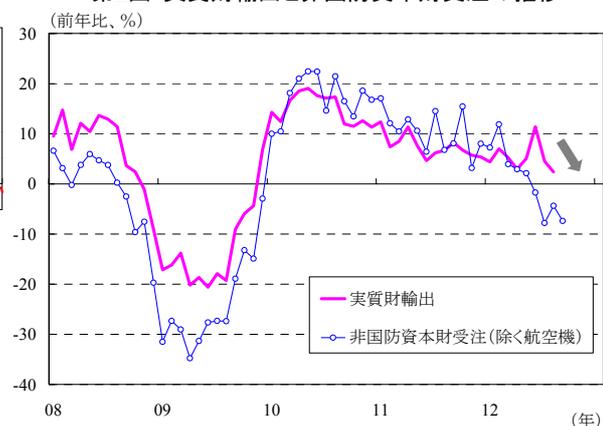
(資料) 米国労働省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1表：11月-12月の小売売上高

	(前年比、%)	
	2012年予測	2011年実績
全米小売業連盟	4.1	5.6
国際ショッピングセンター協会	2.5	3.3
ショッパートラック社	3.3	2.8

(資料) 各種資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：実質財輸出と非国防資本財受注の推移



(資料) 米国商務省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京UFJ銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko\_ishimaru@mufg.jp  
栗原 浩史 hiroschi\_2\_kurihara@mufg.jp  
前原 佑香 yuka\_maehara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。